

(別紙1)

平成30年度関東東海北陸農業試験研究推進会議経営部会及び秋季研究会開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議  
経営部会 部会長 金岡 正樹

1. 趣 旨

近年、農業分野でも、ICT、ロボット、AI 等の新たな技術を活用したスマート農業の進展は著しい。愛知県では特に施設園芸において、「あいち型植物工場」の考え方に代表されるように収益目標に応じた次世代技術への投資と効率的な活用、グループによる研究会活動が実践されている。

そこで、平成 30 年度は「経済合理性から見た次世代施設園芸の展望(仮)」をテーマに、愛知県において秋季研究会を開催する。具体的には、(1)農林水産省「次世代施設園芸導入加速化支援事業」愛知県拠点、(2)愛知県で共同開発されたモニタリング装置を活用したトマト生産経営体、(3)統合環境制御装置を活用したミニトマト生産経営体、以上の3つの先進的な取組の現地視察と、愛知県内のスマート農業への取組に関する報告を素材に、ICTを活用した施設園芸の経営実態を把握するとともに、課題と今後の方向について検討する。

2. 開催日程 平成 30 年 10 月 11 日(木)～10 月 12 日(金)

3. 開催場所 愛知県豊橋市及び豊川市の生産施設  
名古屋国際センター(愛知県名古屋市中村区那古野一丁目 47-1)

4. 議 事

1)経営部会秋季研究会 10 月 11 日(木)13:00～10 月 12 日(金)11:30 (予定)  
研究テーマ「経済合理性から見た次世代施設園芸の展望(仮)」

(1) 現地視察 10 月 11 日(木)13:00～16:20

豊橋駅集合 13:00、出発 13:10 (名古屋駅 18:30 着予定)、借上げバス移動

現地視察 (1) 農林水産省「次世代施設園芸導入加速化支援事業」愛知県拠点

(2) モニタリング装置を活用したトマト生産経営体

(3) 統合環境制御装置を活用したミニトマト生産経営体

(2) 検討会 10 月 12 日(金)9:30～11:30(予定)

会場 名古屋国際センター(愛知県名古屋市中村区那古野一丁目 47-1)

議事 (1)事例報告 第1報告:愛知県スマート農業の特徴と経営

(愛知県農業総合試験場 長屋浩治)

第2報告:あぐりログ及び Akisai を活用した取組

(JA 西三河きゅうり部会 改革プロジェクトサブリーダー 下村堅二)

第3報告:経営改善に向けて統合環境制御等を活用したIGHの取組

((株)イノチオホールディングス 事業企画課長 鈴木邦典)

(2) 総合討議(座長 農研機構 中央農業研究センター 島 義史)

2)推進会議経営部会 10 月 12 日(金) 12:30～15:30(予定)

会場 名古屋国際センター(愛知県名古屋市中村区那古野一丁目 47-1)

議事 (1) 国が重点的に研究開発を推進すべき技術的課題への対応について

(2) 今年度の研究の進捗状況

(3) 今後推進すべき研究問題と研究戦略

(4) その他

5. 参集範囲

関東東海北陸地域公立試験研究機関・行政機関・普及機関、農林水産技術会議事務局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、関東東海北陸農業経営研究会関係者、農林水産政策研究所、農研機構内研究機関、その他部会長が必要と認めた者

6. 事務局および申込先

秋季研究会事務局及び申込先

愛知県農業総合試験場企画普及部経営情報研究室(担当:荒巻 忍)

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-1

TEL:0561-62-0085(内線 390) FAX:0561-63-0815 E-mail:shinobu\_aramaki@pref.aichi.lg.jp

7. そ の 他

参加申し込み方法等については、中央農業研究センター経営部会事務局より別途連絡する。